

余丁校通信



5月の生活目標

時間を守って行動しよう。

二つの眼鏡

副校長 木田 那奈

新緑が目には鮮やかな 季節になりました。

1年生は少しずつ学校生活に慣れてきているようです。休み時間は、明るく元気に遊んでいる姿が見られようになりました。4月18日(金)には、代表委員会を中心に「1年生を迎える会」が行われました。6年生のお兄さん、お姉さんと手をつなぎ、5年生の持つ花のアーチをくぐり入場。「入学おめでとう」の拍手と言葉をかけてもらい、念願の仲間入りを果たしました。

先日、2014年に亡くなった日本の教育学者でお茶の水女子大学名誉教授の森 隆夫さんの言葉を見つけました。

「遠くにあるものは小さく見える。しかし、望遠鏡で見ると大きいことが分かる。近くにあるものは大きく見える。しかし、顕微鏡で見ると中身が空っぽであることが分かったりする。社会現象も同様で、物事を見る場合には、社会的望遠鏡と社会的顕微鏡が必要である。物事を総合的に見ることや、大所高所から判断するには、この二つの眼鏡の使い分けが必要なのである。」というものです。

人間は不思議なもので、目の前にあるものに気が付かず、遠くばかりを探し求めている場合があります。他の人がよく見え、自分の価値を軽視してしまうときもあります。

子育ても同じです。我が子が大きくなることばかりを願っていませんか。よく考えるとスキンシップができる時期が「今」しかないことが分かります。家族がみんなそろっている時間もそれほどないことが分かります。先日、我が息子が大学と高校に入学し、親の手をだいぶ離れてしまい、少し寂しさを感じてしまいました・・・。

子どもを親のペースで育てていると、後で子どものペースに泣かされることがあります。この二つの眼鏡を使い分け、今しかできない子育てを大いに楽しんでみませんか。ぜひ、学校での様子をお子さんに聞いたり、学校行事等にも積極的に関わってみたりしてください。

一人一人の成長に目を向けて、時には見守りながら今後も教職員一同尽力してまいります。

たてわり班活動について

特別活動部

たてわり班活動は、「児童一人一人が役割を担いながら集団に主体的に参加すること」「異年齢の交流活動を通し、他者と関わり合うことの喜びを感じとること」「高学年のリーダー性を育てること」をねらいとして活動しています。

朝のたてわり班活動では、6年生が事前に遊びを計画し、担当教諭と打ち合わせ、当日の進行を行います。遊ぶ場所は、校庭、体育館、ポケット広場、屋上、教室を順番に使っていきます。

5月1日の結団式でたてわり班メンバーの顔合わせを行い、一年間の活動をスタートさせます。たてわりロングの校外活動後は、校内での活動が続きます。回を重ねるごとに、各学年のねらいが達成できるように指導していきたいと考えています。

たてわりロングについて

特別活動部

5月30日(金)に戸山公園へ行きます。今年度からは、「たてわりロング」と名称を改めました。

昨年度までは「全校遠足」という名称で、たてわり班活動よりも「遠足」という言葉に児童の意識が向きがちでした。たてわり班活動の一環であることに重点を置き、名称を変更しました。

午前中は1～6年生のたてわり班でオリエンテーリングや遊びを行います。12時頃学校に戻り、たてわり班のメンバーと一緒に昼食(持参したお弁当)を食べます。

たてわりロング当日には、地域協働学校の方にもご協力いただき、オリエンテーリングに参加していただきます。

地域の方や異学年と交流することを通じて、「思いやり・協力・自主性」などの態度を育成することをねらいとしています。児童一人一人が学年に応じた役割を果たしながら、生き生きと活動できるように計画してまいります。